

令和2年度 事業報告

1、事業の概要

令和3年3月内閣府発表の月例経済報告による北海道の景気は、「新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。」となっており、観光については、「弱い動きとなっている」、個人消費については、「弱含んでいる」という景気動向であり、江別市シルバー人材センターを取り巻く経営環境は、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況にあります。

また、雇用情勢についても、求人が引き続き減少しており、有効求人倍率は、0.94倍と前年を0.22ポイント下回り、完全失業率も、3.0%と前年より0.4%増加して当センターの派遣事業に少なからず影響を与えております。その結果、契約額は、前年度の「7,186万円」を「973万円」下回る「6,213万円」となりました。

一方、請負就業契約額は、江別市の公園管理業務を請け負ったこともあり、前年度の「2億0,701万円」を「3,126万円」上回る「2億3,827万円」となりました。請負と派遣を合わせた総契約額では、前年度の「2億7,887万円」を7.72%上回る「3億0,040万円」となりました。

事業目標の達成状況については、会員数では前年度の「803人」から「860人」と「57人」の増加となり、目標値である「809人」を大幅に上回りました。しかしながら、請負契約金額は、目標値「2億6,207万円」を「2,380万円」下回る「2億3,827万円」となり、派遣契約金額も、目標値「6,686万円」を「473万円」下回る「6,213万円」に留まり、請負と派遣を合わせた金額は、目標値「3億2,893万円」を「2,853万円」下回る「3億0,040万円」となりました。また、派遣就業延人日については、新型コロナ感染症の影響等もあり、目標値の「13,448人日」を「3,002人日」下回る「10,446人日」となりました。

以下、令和2年度の事業実施状況の詳細について、報告します。

2、事業実施状況

(1) 会員数の増強

ア 会員の拡大

全国シルバー人材センター事業協会が示した会員100万人達成計画に基づく北海道シルバー人材センター連合会の江別市会員目標809人を大幅に上回る860人を達成しました。社会奉仕会員制度により退会会員の抑制が図られました。

年 度	目標数	会 員 数
平成27年度	740人	749人
平成28年度	890人	801人
平成29年度	850人	722人
平成30年度	760人	697人
令和元年度	779人	803人
令和2年度	809人	860人

- ① 全戸チラシ配布や街頭啓発を行い、センター事業の普及啓発と新入会員の入会促進に努めました。
- ② 北海道シルバー人材センター連合会と連携して、体験型出前入会説明会を5回実施したこともあり、82名の新規会員が入会しました。
- ③ 隣接の新篠津村との連携により会員増に努めました。
- ④ 社会奉仕会員制度により会員の退会抑制を図り、退会会員を25名としました。

イ 社会奉仕活動の充実

- ① JR駅周辺の環境美化やスポーツイベントの支援をする計画でしたが、新型コロナウイルス感染症により多くが中止となりました。
- ② 超高齢化社会に向けて地域の高齢者を支援するゴミ出しや灯油宅配の事業をワンコインでの有償ボランティアとして継続しました。

事 業 名	開 催 日	場 所	参加人数
野幌駅清掃ボランティア	4月11日	野幌駅前	中止
運動公園マラソンボランティア	5月30日	野幌運動公園	中止
野幌駅草取りボランティア	6月下旬	野幌駅前	中止
野幌駅草取りボランティア	8月29日	野幌駅前	36人

(2) 就業機会の拡大

ア 請負事業の確保

(受託事業)

令和3年3月末現在

年 度	受注件数	請負延人数	契約額
平成27年度	6,364件	46,876人日	221,86万円
平成28年度	6,496件	46,482人日	217,42万円
平成29年度	6,498件	47,243人日	221,48万円
平成30年度	6,315件	46,271人日	220,59万円
令和元年度	5,471件	43,308人日	207,01万円
令和2年度	5,260件	50,975人日	238,27万円

- ① 市内企業や公共団体を訪問して就業先の掘り起こしに努めました。
- ② 市の公園管理業務に新たに参入しました。
- ③ 公共施設等の就業は、会員の交代又はローテーション就業により公平な就業機会の確保に努めました。
- ④ センター内の就業情報板の活用のほか、全会員への郵送等により迅速な情報提供に努め、新たな就業先を紹介しました。
- ⑤ シルバー通信の充実を図り、様々な情報を提供しました。

イ 派遣事業の拡大

企業の人手不足が拡大するなか適正就業を推進することにより、派遣事業実績は、増加を続けてきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延就業人数が目標値の13,448人日を3,002人日下回り、契約金額でも前年度の7,186万円より974万円減少の6,212万円となるなど厳しい状況となりました。

(派遣事業実績)

令和3年3月末現在

年 度	受注件数	派遣延人数	契約額
平成27年度	44件	10,302人日	5,000万円
平成28年度	56件	13,212人日	7,161万円
平成29年度	51件	12,080人日	6,221万円
平成30年度	50件	12,116人日	6,474万円
令和元年度	71件	12,844人日	7,186万円
令和2年度	43件	10,446人日	6,212万円

- ① 就業開拓員による市内民間企業や行政等への訪問によって、新たな就業先の確保に努めました。
- ② 全国シルバー人材センター事業協会及び北海道シルバー人材センター連合会と連携し、企業への派遣事業を進めました。
- ③ 地域の労働力不足を補うために、シルバー派遣事業をより一層拡大し、多様な就業機会確保に努めました。
- ④ 同一労働同一賃金制度への対応をしました。

(事業契約実績)

令和3年3月末現在

年度別	2年度	元年度	30年度	29年度	28年度
受託事業	23,827万円	20,701万円	22,060万円	22,148万円	21,742万円
派遣事業	6,213万円	7,186万円	6,474万円	6,221万円	7,161万円
合計	30,040万円	27,887万円	28,534万円	28,369万円	28,903万円

ウ 技術・接遇等の向上

新型コロナウイルス感染症対策により会員のための視察研修会をはじめ、各種研修会等の開催は、公共施設管理接遇研修を除き、開催できませんでした。

講習会名	開催日	会場	参加人数
剪定講習会	5月中旬	センター研修室	中止
美唄市SC視察研修会	9月下旬	美唄市SC	中止
登別市SC視察研修会	11月下旬	登別市SC	中止
冬囲い講習会	10月上旬	センター研修室	中止
刃物研ぎ講習会	12月上旬	センター研修室	中止
安全衛生研修会	1月下旬	はやし	中止
福祉家事援助サービス講習会	2月中旬	センター研修室	中止
公共施設管理接遇研修	3月3日	センター研修室	16人

(3) 安全就業及び適正就業の推進

ア 安全就業の徹底

傷害事故2件、労災事故2件と損害賠償事故5件が発生しましたが、重篤事故は発生しませんでした。安全衛生委員会では、安全就業の徹底に向け、以下の5項目の対策を行いました。

- ① 安全パトロールを行い、安全意識の啓蒙と事故防止に努めました。
- ② 安全標語の募集など、安全と事故防止のための啓発に努めました。
安全標語最優秀賞 「今一度 心の点呼 身を守る」
- ③ 安全保護具の着用と機械器具の点検整備を強化し、事故防止に努めました。
- ④ 請負会員には健康診断の受診を奨励し、派遣会員には健康診断を実施しました。
- ⑤ 「団体傷害保険・総合賠償責任保険」に継続加入しました。

令和2年度事故概況

(傷害事故 2件)

(前年度 2件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
女	78	屋内清掃	階段に躓き転倒、膝蓋骨にヒビ
男	68	駐車場管理	駐車場入り口付近で転倒、肋骨にヒビ

(労災事故 2件)

(前年度 0件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
男	74	機械草刈り	左手人差し指蜂刺症
男	66	屋外清掃	工場構内の横断歩道にて転倒、右大腿骨頸部骨折

(賠償事故 5件)

(前年度 8件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
男	74	機械草刈り	機械草刈り作業中、誤って灯油配管パイプ切断。
男	72	機械草刈り	学校敷地内の草刈り作業中の飛び石により学校のガラスを破損。
男	79	機械草刈り	機械草刈り作業中、誤って灯油配管パイプ切断。
男	70	墓地草刈	機械草刈り作業中、飛び石により墓石を破損。
男	77	機械草刈り	機械草刈り作業中、誤って灯油配管パイプ切断。

イ 適正就業の推進

- ① 法令を遵守し、高齢者に適した臨時的、短期的または軽易な就業を行うことはシルバー人材センターの基本姿勢であり、社会的な責任をもってその役割を果たしました。
- ② 企業等の発注者や会員に「適正就業ガイドライン」を活用してセンターの就業形態について周知し、理解を求めました。

- ③ 公共施設等の就業は、会員の交代又はローテーション就業により公平な就業機会の確保に努めました。

(4) 運営基盤の強化

ア 組織体制の強化

派遣事業の拡大に向けて臨時職員を採用したほか、会員による事務補助員も就業させ、組織体制の強化に努めました。

年度別	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
正職員数	6人	5人	4人	4人	4人
臨時職員数	2人	9人	5人	5人	5人
業務補助員数	1人	1人	1人	1人	2人

- ① 公益社団法人として、健全な運営や透明性の確保、地域社会への貢献、法令順守など認定法に基づく事業運営を行いました。
- ② 理事会の活性化を図るための役員研修会は、コロナ禍により中止になりました。
- ③ 事務局体制の強化のため事務局職員を増員しました。
- ④ コロナ禍により地区懇談会は、中止としました。
- ⑤ パソコン等情報機器の整備により効率化に努めました。

イ 財政の健全化

国の補助金の削減により厳しい財政運営を続けてきましたが、平成27年度から始まった高齢者サポート事業補助金により安定的な運営資金が確保されました。

(補助金実績)

年度別	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
連合交付金	23,339千円	23,339千円	23,739千円	23,541千円	23,381千円
市補助金	23,339千円	23,339千円	23,739千円	23,541千円	23,381千円
村補助金	500千円	—千円	—千円	—千円	—千円
合計	47,178千円	46,678千円	47,478千円	47,082千円	46,762千円

- ① 就業の拡大により事務費を確保しました。
- ② 派遣事業の拡大により手数料を確保しました。
- ③ センター事業の趣旨に賛同する賛助会員の確保に努めました。
- ④ 最低賃金が改正されなかったため配分金の改正を行いませんでした。
- ⑤ 独自事業の「堆肥・腐葉土」作りは、採算性や作業工程の効率化に努めました。

ウ 広報活動の強化

- ① 会員の増強や受注の拡大のために、新聞広告やチラシ配布を継続するほか、センターホームページの充実を図りました。
- ② 会員一人ひとりが会員増強と事業拡大のために、口コミによる広報活動への取り組みを進めました。

(5) 関係機関団体等との協力連携

江別市、厚生労働省、北海道労働局、北海道、全国シルバー人材センター事業協会、北海道シルバー人材センター連合会、道内外のシルバー人材センターと連携し、事業の円滑な運営に努めた外、シルバー人材センター未設置の隣接自治体である新篠津村と連携し、新たな事業を進めました。